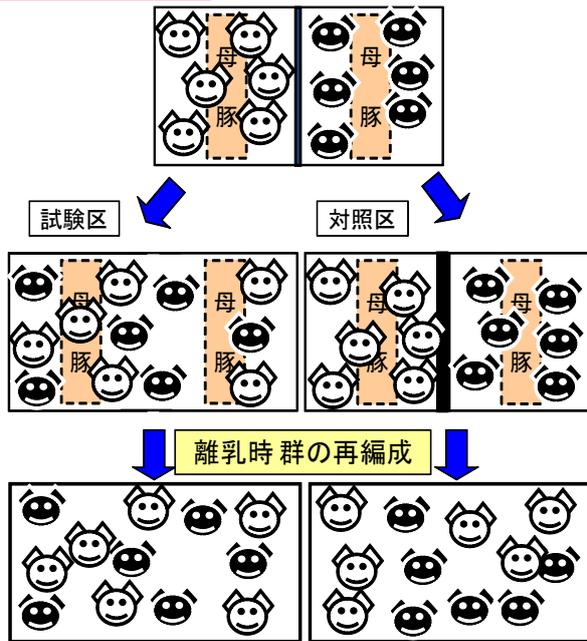


# ほ乳期の混合飼育がほ乳・離乳子豚に与える影響

## 成果の要約

生後2日以内に混合飼育した区（試験区）と離乳時に混合した区（対照区）と比べた結果、試験区は離乳後の群の再編成時の異腹間の敵対行動と外皮損傷を大きく減少させたことから、離乳時のストレスを低減する飼育方法になると考えられる。

## 試験区の概要

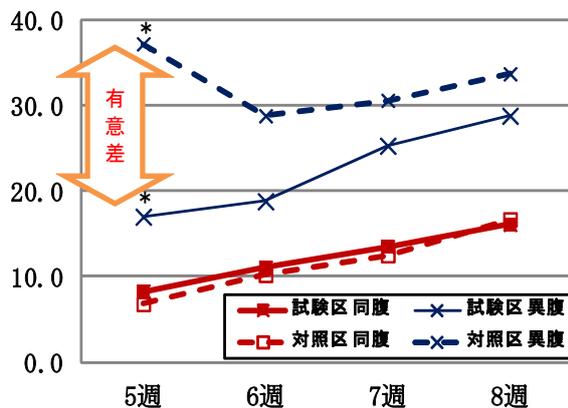


注: 😊と 😊 は別の母親の子供

試験区は生後2日以内に2群の隔壁を除去し混合、対照区は離乳後に混合



## 結果の概要



\*: P<0.05

図1 敵対行動の推移 (5～8週)

表1 外皮損傷の割合(外皮損傷レベル別)

外皮損傷レベル	5週齢	
	試験区	対照区
損傷なし	84.8	59.4 *
1～5個の損傷あり	15.2	31.0 *
6～10個の損傷あり	0.0	6.5
11～15個の損傷あり	0.0	3.1

\* : P<0.01



ほ乳期の混合飼育は群の再編成時(5週齢)の敵対行動、外皮損傷を減少させた